



2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月5日

上場会社名 BASE株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4477 URL https://binc.jp
 代表者（役職名） 代表取締役上級執行役員CEO（氏名） 鶴岡 裕太
 問合せ先責任者（役職名） 取締役上級執行役員CFO（氏名） 原田 健（TEL） 03(6441)2075
 半期報告書提出予定日 2025年8月5日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家、アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期中間期	9,144	24.8	575	12.8	570	12.2	579	12.5	446	△1.0
2024年12月期中間期	7,325	36.7	510	—	508	—	515	—	451	—

（注）包括利益 2025年12月期中間期 493百万円（7.9%） 2024年12月期中間期 457百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	3.88	3.81
2024年12月期中間期	3.91	3.82

（注）EBITDA=（営業利益+減価償却費+のれん償却額）

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期中間期	42,785	13,414	30.8
2024年12月期	46,288	13,600	29.1

（参考）自己資本 2025年12月期中間期 13,188百万円 2024年12月期 13,470百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年12月期	—	0.00	—	—	—
2025年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,600	22.6	1,034	28.6	1,000	29.4	984	23.5	1,247	266.5	10.79

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

（注2）EBITDA=（営業利益+減価償却費+のれん償却額）

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年12月期中間期	117,821,657株	2024年12月期	116,386,590株
② 期末自己株式数	2025年12月期中間期	2,735,768株	2024年12月期	36,542株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年12月期中間期	115,117,083株	2024年12月期中間期	115,323,255株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しております。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について)

当社は、2025年8月5日(火)に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。当日使用します決算説明資料は、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 中間連結貸借対照表	6
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	13

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当社グループは「Payment to the People, Power to the People.」をミッションとして掲げ、ネットショップ作成サービス「BASE」及び購入者向けショッピングサービス「Pay ID」を提供するBASE事業、オンライン決済サービス「PAY. JP」を提供するPAY. JP事業、資金調達サービス「YELL BANK」等を提供するYELL BANK事業、及び越境ECサービス「want. jp」を提供するwant. jp事業を展開しており、これらのサービスを通して、個人及びスモールチームをエンパワーメントすること、スタートアップ企業を支援することに注力しております。

「令和5年度 電子商取引に関する市場調査」によると、2023年の国内物販系分野のBtoC-EC市場規模は、COVID-19の影響を受けた2020年や2021年と比べると緩やかではあるものの、堅調に増加しており、スマートフォン経由の販売は全体平均よりも高水準で成長しました。国内サービス系分野は非常に力強く成長しており、2023年はCOVID-19感染拡大前の水準を上回る市場規模に成長しました。これらの状況は、当中間連結会計期間においても継続していると認識しており、物販ECを主軸とするBASE事業と、サービス系の加盟店が一定の比率を占めるPAY. JP事業が、持続的な成長を続ける要因となっております。

このような事業環境においてBASE事業では、幅広い個人及びスモールチームから圧倒的に選ばれるポジションを維持し、中長期にわたる持続的な成長を実現するために、引き続きプロダクトの強化に努めております。PAY. JP事業では、スタートアップ企業やベンチャー企業をターゲットに、よりシンプルで導入や運用が簡単なオンライン決済機能を目指してプロダクトを強化し、既存加盟店の成長及び新規加盟店の拡大に努めております。YELL BANK事業においては、当社グループのマーチャントを対象に低リスクな資金調達手段を提供し、全てのマーチャントのキャッシュフローにまつわる課題を解決することに注力しております。さらに、2024年8月に子会社化したwant. jp株式会社が運営するwant. jp事業においては、日本のEC運営者による世界中のローカルな販売網へのアクセスを容易にする越境ECサービスを提供しております。

以上の結果、当社グループの当中間連結会計期間の売上高は9,144百万円(前年同期比24.8%増)、営業利益は570百万円(前年同期比12.2%増)、経常利益は579百万円(前年同期比12.5%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は446百万円(前年同期比1.0%減)となりました。

なお、前連結会計年度より、want. jp株式会社を連結子会社化したことに伴い、「want. jp事業」を報告セグメントとして追加しております。また、従来「その他事業」としていた報告セグメントの名称を「YELL BANK事業」へ変更しております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

A) BASE事業

当中間連結会計期間のBASE事業の流通総額は、月間売店数及び1ショップあたり月間平均GMVがともに増加し、前年同期比でおおむね想定通りに増加しました。

以上の結果、当中間連結会計期間の流通総額は80,572百万円(注文ベース)、77,584百万円(決済ベース)(前年同期比9.9%増(注文ベース)、11.7%増(決済ベース))、売上高は4,938百万円(前年同期比16.5%増)、セグメント利益は593百万円(前年同期比41.2%増)となりました。

なお、BASE事業の収益性の向上を目的として、7月1日より、購入者向けショッピングサービス「Pay ID」のショッピングアプリの有料化をいたしました。また、当中間連結会計期間においては、当有料化に向けたプロダクト開発及びマーケティング施策の企画等を行いました。(注)

(注) 当有料化による2025年12月期業績への影響は、5月8日開示の「『Pay IDアプリ』販売手数料新設のお知らせ」をご参照ください。

B) PAY. JP事業

当中間連結会計期間におけるPAY. JP事業の流通総額は、前年同期比でおおむね想定通りに増加しました。また、原価率の低減により、売上総利益率も改善しました。

以上の結果、当中間連結会計期間の流通総額は111,151百万円(前年同期比15.2%増)、売上高は3,067百万円(前年同期比14.1%増)、セグメント利益は169百万円(前年同期比41.4%増)となりました。

C) YELL BANK事業

当中間連結会計期間におけるYELL BANK事業は、「YELL BANK」の事業成長により、前年同期比で想定通りに成長しました。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は523百万円(前年同期比30.8%増)、セグメント利益は239百万円(前年同期比52.9%増)となりました。

D) want.jp事業

当中間連結会計期間におけるwant.jp事業の売上高は618百万円、セグメント損失は13百万円となりました。

なお、BASE事業と共同で進めている、「BASE」のショップを対象とした越境EC機能の開発は、引き続き想定通りに進捗しています。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末における総資産は42,785百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,502百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が6,496百万円、未収入金が569百万円減少した一方で、その他流動資産が3,477百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債は29,371百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,316百万円減少いたしました。これは主に、営業未払金が3,024百万円、その他流動負債が232百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は13,414百万円となり、前連結会計年度末に比べ186百万円減少いたしました。これは主に、自己株式の取得による減少999百万円があった一方で、親会社株主に帰属する中間純利益の計上により利益剰余金が446百万円増加したこと、譲渡制限付株式報酬としての新株式発行等により資本金が112百万円、資本剰余金が112百万円増加したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、19,233百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,496百万円減少いたしました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は2,099百万円(前年同期は521百万円の使用)となりました。主な増加要因は、税金等調整前中間純利益579百万円、未収入金の減少562百万円等であり、主な減少要因は、営業未払金の減少3,024百万円、法人税等の支払額206百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は3,382百万円(前年同期は9百万円の使用)となりました。主な減少要因は、関係会社株式取得のための前払金の支出3,326百万円、有形固定資産の取得による支出6百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1,014百万円(前年同期は4百万円の獲得)となりました。主な減少要因は、自己株式の取得による支出1,007百万円、長期借入金の返済による支出20百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

中期の経営方針としては、従来の方針を継続し、既存プロダクトの強化によるトップライン成長と収益性向上を両立させることで、EBITDA成長を目指してまいります。さらに、グループの非連続な成長を目的に、積極的なM&A及び提携等により、エンパワーメントする対象顧客を拡大し、グループ独自のバリューアップを行うことで、BASEグループの価値創造の最大化を目指してまいります。

上記を踏まえた2025年12月期の連結業績予想は下記の通りとなっております。

BASE事業においては、新規ショップ開設向上への再注力による中長期的なGMV成長率向上と、下半期以降に予定している「Pay ID」収益化を通じたテイクレート向上に取り組みます。

PAY. JP事業においては、決済手段の追加等のプロダクト開発に加え、セールス&マーケティングの拡充により新規加盟店獲得を強化し、GMV成長を主な成長ドライバーとした売上総利益の成長に取り組みます。

YELL BANK事業においては、中長期的に健全な運営基盤を維持するため、2024年に急成長した「YELL BANK」のチューニングを実施しながら、主に「YELL BANK」の事業成長による売上総利益の成長を目指してまいります。

want. jp事業においては、既存事業の早期立て直しを図ると同時に、BASE事業と共同開発を進める越境EC機能の早期提供を目指してまいります。

上記を踏まえ、連結売上高は19,600百万円(前年同期比+22.6%)、連結売上総利益は9,085百万円(同+26.8%)の見込みです。

販売費及び一般管理費は、主に「BASE」及び「Pay ID」でのプロモーション費の増加と、want. jp事業の連結影響の通期化により、8,085百万円(同+26.5%)の見込みです。なお、これには中長期的な成長を目的とした投資金額約300百万円を織り込んでおりますが、施策の期ずれや一部未消化等が発生する可能性がございます。

以上の結果、営業利益の見通しは1,000百万円(前年同期比+29.4%)の見込みです。

なお、2025年7月に株式を取得した株式会社Eストアの連結化影響は、上記の2025年12月期業績予想には含まれておりません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,730	19,233
未収入金	17,861	17,291
その他	1,989	5,467
貸倒引当金	△329	△423
流動資産合計	45,252	41,568
固定資産		
有形固定資産	17	19
無形固定資産	1	2
投資その他の資産	1,017	1,194
固定資産合計	1,036	1,217
資産合計	46,288	42,785
負債の部		
流動負債		
営業未払金	30,642	27,617
チャージバック引当金	-	1
契約負債	195	159
その他	1,051	818
流動負債合計	31,888	28,596
固定負債		
長期借入金	427	407
その他	371	367
固定負債合計	799	774
負債合計	32,687	29,371
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,735	8,847
資本剰余金	4,999	5,111
利益剰余金	△266	180
自己株式	△0	△999
株主資本合計	13,468	13,139
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1	48
その他の包括利益累計額合計	1	48
新株予約権	130	226
純資産合計	13,600	13,414
負債純資産合計	46,288	42,785

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
売上高	7,325	9,144
売上原価	4,087	4,974
売上総利益	3,237	4,169
販売費及び一般管理費	2,729	3,598
営業利益	508	570
営業外収益		
受取利息	0	13
受取手数料	3	6
講演料等収入	3	4
その他	1	9
営業外収益合計	9	34
営業外費用		
支払利息	-	7
為替差損	-	4
株式交付費	0	0
コミットメントフィー	1	1
支払手数料	-	7
その他	-	3
営業外費用合計	2	25
経常利益	515	579
税金等調整前中間純利益	515	579
法人税、住民税及び事業税	103	123
法人税等調整額	△40	9
法人税等合計	63	132
中間純利益	451	446
親会社株主に帰属する中間純利益	451	446

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
中間純利益	451	446
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	46
その他の包括利益合計	6	46
中間包括利益	457	493
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	457	493

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	515	579
減価償却費	1	4
株式報酬費用	76	154
貸倒引当金の増減額(△は減少)	32	94
チャージバック引当金の増減額(△は減少)	△5	1
受取利息	△0	△13
受取手数料	△3	△6
支払利息	-	7
支払手数料	-	7
株式交付費	0	0
未収入金の増減額(△は増加)	△1,775	562
営業未払金の増減額(△は減少)	11,825	△3,024
営業預り金の増減額(△は減少)	△10,240	7
その他	△952	△287
小計	△527	△1,913
利息の受取額	0	13
手数料の受取額	10	13
利息の支払額	-	△7
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△4	△206
営業活動によるキャッシュ・フロー	△521	△2,099
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△15	△6
敷金及び保証金の差入による支出	△234	-
敷金及び保証金の回収による収入	240	0
関係会社株式取得のための前払金の支出	-	△3,326
その他	-	△50
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9	△3,382
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	-	△20
新株予約権の行使による株式の発行による収入	0	12
自己株式の取得による支出	△0	△1,007
新株予約権の発行による収入	3	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	4	△1,014
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△525	△6,496
現金及び現金同等物の期首残高	22,227	25,730
現金及び現金同等物の中間期末残高	21,702	19,233

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

当中間連結会計期間において、譲渡制限付株式報酬の付与及びストック・オプションとしての新株予約権の行使により資本金が61百万円、資本剰余金が61百万円増加しております。

当中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

当社は、2025年2月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式2,665,000株の取得を行っております。この結果、当中間連結会計期間において、自己株式が999百万円増加し、当中間連結会計期間末において自己株式が999百万円となっております。

(セグメント情報等)

セグメント情報

前中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	BASE事業	PAY. JP事業	YELL BANK 事業	計		
売上高						
一時点で移転される財又は サービス	3,988	2,670	17	6,676	—	6,676
一定の期間にわたり移転さ れる財又はサービス	227	16	—	244	—	244
顧客との契約から 生じる収益	4,216	2,687	17	6,920	—	6,920
その他の収益	22	0	382	404	—	404
外部顧客への売上高	4,238	2,687	399	7,325	—	7,325
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	0	—	0	△0	—
計	4,238	2,687	399	7,325	△0	7,325
セグメント利益	420	119	156	696	△187	508

(注) 1. セグメント利益の調整額△187百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	BASE事業	PAY. JP事業	YELL BANK 事業	want. jp 事業	計		
売上高							
一時点で移転される 財又はサービス	4,535	3,023	24	618	8,202	—	8,202
一定の期間にわたり 移転される財又はサ ービス	335	40	—	—	375	—	375
顧客との契約から 生じる収益	4,871	3,063	24	618	8,578	—	8,578
その他の収益	66	0	498	—	565	—	565
外部顧客への売上高	4,938	3,063	523	618	9,144	—	9,144
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	3	—	—	3	△3	—
計	4,938	3,067	523	618	9,147	△3	9,144
セグメント利益又は損 失(△)	593	169	239	△13	988	△417	570

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△417百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、want.jp株式会社を連結子会社化したことに伴い、「want.jp事業」を報告セグメントとして追加しております。また、従来「その他事業」としていた報告セグメントの名称を「YELL BANK事業」に変更しております。当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。なお、前中間連結会計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しております。

(重要な後発事象)

(株式取得による企業結合)

当社は、2024年12月26日開催の取締役会において、株式会社JG27（以下「JG27」といいます。）によるEストアの普通株式に対する公開買付けを含む、Eストアの完全子会社化を目的とする一連の取引（以下「本完全子会社化」といいます。）の完了、及びEストアの株式（以下「本株式」といいます。）の全てをJG27から取得（以下「本株式取得」といいます。）する旨の契約（以下「本株式譲渡契約」といいます。）を締結することを決議し、JG27との間で、同日付で本株式譲渡契約を締結しました。

その後、本完全子会社化を含む本株式取得を実現するための一連の手続きを経て、2025年7月18日に本株式取得が完了し、Eストアが当社の完全子会社になりました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	株式会社Eストア
事業の内容	情報・通信業

(2) 企業結合を行った主な理由

Eストアは、創業以来、インターネットの本質であるピアツーピアのD2Cにこだわりながら、ECを総合的に支援するサービス「Eストアショップサーブ」等を提供してまいりました。

当社グループの成長戦略には3つの柱があります。一つ目は、「BASE」「PAY.JP」「Pay ID」「YELL BANK」といった既存プロダクトの強化によるGMV成長と収益性向上の両立。二つ目は、既存プロダクト間のシナジー創出による成長加速。三つ目は、M&A及び提携等によるグループ全体の非連続な成長の実現です。引き続き既存プロダクトの成長を最優先に追求しながらも、グループの非連続な成長に向けて、積極的なM&A等により対象顧客の拡大を目指しております。

当社グループが提供するサービスは、個人やスモールチームの方がご自身のネットショップに決済を導入し、誰でも簡単にネットショップの運営ができる「BASE」に加え、スタートアップが自社サービスに簡単に決済を導入できる「PAY.JP」、資金調達サービス「YELL BANK」、「BASE」でお買物をする購入者の方向けのショッピングサービス「Pay ID」、そして日本のEC事業者の越境ECをサポートする「want.jp」がございます。これらは全て、EC・決済・金融に関する課題解決に強みを持っております。こうした当社グループの強みやEストアが提供するサービスの強みを活かすことで、Eストアが「Eストアショップサーブ」の加盟店に提供する付加価値をさらに向上させることが可能であると判断したため、本株式取得を決議いたしました。

(3) 企業結合日

2025年7月18日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更ありません。

(6) 取得した議決権比率

100.0%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	3,326百万円
<hr/>		
取得原価		3,326百万円

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 140百万円(概算)

4. 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定していません。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定していません。